

おづみんなのパークプロジェクト

設立趣意書

人って、自分が居場所だって思える場所、空間には愛着が湧きやすくなると思いませんか。家庭が一番身近な居場所だとしたら、学校、職場などは第二の居場所。昨今「サードプレイス」という呼び名が、家庭と学校・職場の間にある第三の居場所として注目されています。それは、人にとって、お店であったり、スポーツ広場であったり、河川敷であったり。言うまでもなく「公園」は人にとってサードプレイスになる要素が満載です。

従来から都市計画により都市化が進められてきた中で出来てきた公園は、スペースとしての公園。市民の憩いの場としてのサードプレイスになる事が求められる公園では、創意工夫が求められます。自然環境が少ない土地柄では、公園に自然環境が求められる事は必然でしょう。でも、自然環境として人が求める環境作りをしようと思っても最低でも10年はかかると思います。うまく人の手で、仕組みを作り、仕掛けをして作り上げていく事が、求められると思います。

今、都市化が進んできた中で、住宅も、施設も、都市インフラが更新「リニューアル」の時期に来ています。それと共に公園も同様です。小さな児童公園などは、雑草の処理で手一杯で、あとは放置の状態の公園も少なくありません。

地域のお店などが、大手のショッピングモールなどにお客を奪われて、市街地の商店が衰退の危機にあります。大きなところには、色々新しいお店や魅力が多く、自然と足はそちらに向かいます。地域の小さな児童公園をお店と捉えると、森や芝生や運動公園などもある大きな公園は、「ショッピングモール」。モールには、普段から人が寄って賑わい、催しがあり、仕組みや仕掛けが満載です。でも、地域のお店もコンビニの様な利便性があると非常に重宝します。また、大きいだけで存在していたスーパーなどは、モールの魅力に負けて衰退気味です。

小さいからダメ、大きいからOKという事が無いのは、お店の例からも分かる様に、公園でも同様だと思うのです。確かにスケールメリットがあれば、多くの人が「自分のサードプレイス」を自分で作っていく事が出来そうです。でも、そういう様々な魅力になる様な公園は、その様になるカタチ、仕組みを自分たちで作っていかなければ、継続して魅力ある居場所にはなっていないと思うのです。

又、最近ではあらゆる業種で成熟化してきた社会では、専門特化型のお店、企業、施設なども多く見受けられてきました。今、リニューアルが求められる施設や、公園などは規模に応じた専門特化も考慮にいれないといけない時代だと思えます。地域の児童公園には、特化された魅力による差異化を図り、同様に大きな公園も役割を明確にする必要があります。これからの公園に求められる事は、地域での役割の明確化です。公園にも大小なりの役割とそれを繋ぐネットワークが大事です。

これから作られていく「市民会館跡地公園」は、規模に応じた役割を明確にするとともに、地域の人とどの様なつながりを作っていくかのビジョンをしっかりと持つ必要があると思います。市民にとっての居場所作りと、地域の課題を解決していける役割のある公園、更にはどんどん進化していく社会に対応したテクノロジーの利活用で新しい発想の役割を担える公園でありたいと思います。

リアルな空間で感じられる事は、雰囲気味わう事や、その場所で紡がれた思い出や歴史を体感できる事。何十年も居続けた市民会館には多くの人の思い出や歴史が詰まっています。市民会館での色んな活動、パークゴルフでもひまわり広場でも、たくさんの人の記憶にこの場所が刻まれています。地域の物語は、その場所なりの歴史を紡いでいく人の活動が価値を高めていくのです。私たちには過去の財産をこれからどう表現していくかも市民として課せられていると思うのです。

何でも新しい事は綺麗だし、魅力的に見えます。何も価値あるものは、伝統的な建築物やシンボルだけではないのです。リニューアルにとって、どう歴史を繋げていくかも、古民家再生などを見ても理解できるように、公園も同様です。新しい公園は、歴史の上に作られるその場所与えられた役割なのです。だから、私たちが時間をかけて自分の物語を作る様に、地域も時間をかけて過去と未来を繋げる地域の物語をつくる事が自然の姿です。「市民会館跡地公園」は、歴史を繋げていく必要のある地域の財産になっていく存在だと思います。

地域の人が自分たちの居場所だと思える公園、施設、空間は自分たちで形作っていく事が大切です。私たちは、新しい計画を実現していく上で役割分担の元進めていきたいと思っています。行政の役割、事業者の役割、地域の人々の役割、私たちプロジェクトメンバーの役割。私たちは、プロデューサーでもあり、演出家でもあると思います。地域の新しい歴史を作っていく「公園」という舞台をどの様にプロデュースし、演出していくのか。色々な人、多くの市民を登場人物として出演してもらう様な「舞台を設営」していく必要があると思います。

地域みんなが自分の居場所と思える様な「サードプレイス」創り。「おづ」地域みんなの公園にしていくプロジェクトとして、「おづみんなのパークプロジェクト」と名付け、これからの持続可能な社会づくりが求められている時代に相応しい公園づくり活動を通して、私たちは地域の子どもたちへの貢献、社会人への貢献、高齢者への貢献をめざしていきます。

地域の拠点「BASE」になり、魅力があり続ける為には、地域全体の取り組みが必要です。私たちは、既成の概念に縛られず、AI・ロボットのソサエティ 5.0 の時代にも沿った活動を通して、人を活気づけ、地域を活性化するような地域づくりと共に、子どもから高齢者まで質の高い教育と、健康と福祉を提供し、働きがいや経済成長を促し、住み続けられるまちづくりをめざす団体として地域発展の一助となるべくプロジェクトを設立し活動致します。

令和2年2月27日

おづみんなのパークプロジェクト 代表 今井カツノリ